

## MySQL 5.1.53 リリースノート（日本語翻訳）

### 修正されたバグ:

- **InnoDB ストレージエンジン:** [Bug#54678](#) のフォローアップ修正。デバッグバージョンのサーバでは、[TRUNCATE TABLE](#) が従来同様にクラッシュ（表明違反）する可能性があった（[Bug#57700](#)）。
- **InnoDB ストレージエンジン:** 高負荷時のサーバで、InnoDB システムテーブルスペースが大きくなり続ける可能性があった（[Bug#57611](#)）。
- **InnoDB ストレージエンジン:** [innodb stats on metadata](#) オプションを無効にすると、[ANALYZE TABLE](#) ステートメントによって [InnoDB](#) テーブルのカーディナリティー統計の更新を実行できない可能性があった（[Bug#57252](#)）。
- **InnoDB ストレージエンジン:** InnoDB テーブルに対する [ALTER TABLE](#) の実行中にサーバがクラッシュした場合、[SHOW CREATE TABLE](#) でテーブルを調査するか、または [INFORMATION\\_SCHEMA](#) テーブルに対してクエリを実行すると、サーバが表明違反を発行して停止する可能性があった（[Bug#56982](#)）。
- **InnoDB ストレージエンジン:** カラムに大文字と小文字を区別しないインデックスが存在し、カラムの値の大文字が小文字に変更されるか、小文字が大文字に変更された場合、[InnoDB](#) テーブルに対するクエリ結果に間違った値が返される可能性があった（[Bug#56680](#)）。
- **InnoDB ストレージエンジン:** 外部キーが大量に宣言されている場合、[SHOW CREATE STATEMENT](#) ステートメントの出力が切り捨てられる可能性があった（[Bug#56143](#)）。
- **InnoDB ストレージエンジン:** コンパイルの問題が NetBSD/sparc64 上の [InnoDB](#) ソースコードに影響を与えていた（[Bug#53916](#)）。
- **レプリケーション:** MySQL 5.1 のマスタと MySQL 5.5 のスレーブの間の行ベースのレプリケーションが、[SET PASSWORD](#) で失敗していた。

この修正の結果、MySQL 5.1.53 または MySQL 5.1 の最新リリースを動作しているマスタと MySQL 5.5.7 または MySQL 5.5 の最新のリリースを動作しているスレーブの間で、行ベースのレプリケーションを使用して、[SET PASSWORD](#) を正しくレプリケートできるようになった（[Bug#57098](#)）。

[Bug#55452](#)、[Bug#57357](#) も参照。

- **レプリケーション:** `ALTER TABLE` ステートメントを使用して `MyISAM` テーブルのカラムにサイズ設定以外の変更を実行すると、バイナリログが破損し、レプリケーション違反が発生した ([Bug#56226](#))。
- **レプリケーション:** トランザクショナルストレージエンジンを使用するテーブルだけを更新するトランザクションの実行中に、`STOP SLAVE` が発行されると、スレーブ SQL スレッドは現在のトランザクションを後退復帰してすぐに停止する。以前は、`CREATE TEMPORARY TABLE` ステートメントと `DROP TEMPORARY TABLE` ステートメントはどちらも後退復帰不可であるにもかかわらず、そのどちらか、または両方を含むトランザクションでも、同じ動作が行われていた。テンポラリテーブルはユーザセッション（この場合はレプリケーションユーザ）が終了するまで存在するので、スレーブが停止またはリセットされるまで残存する。その後 `START SLAVE` ステートメントが実行され、トランザクションが再起動されると、作成しようとするテンポラリテーブルはすでに存在する（または削除しようとするテンポラリテーブルは存在しない）というエラーで SQL スレッドが中断する。

この修正によって、実行中のトランザクションに `CREATE TEMPORARY TABLE` ステートメントと `DROP TEMPORARY TABLE` ステートメントのどちらか、または両方が含まれる場合、SQL スレッドはトランザクションの終了を待機した後、停止するようになった ([Bug#56118](#))。

- **レプリケーション:** 同じ名前のテンポラリテーブルと非テンポラリテーブルがどちらも存在する場合、その名前を指定した更新は、通常はテンポラリテーブルにのみ適用される。ただし、その非テンポラリテーブルが、`CREATE TABLE ... SELECT` ステートメントで既存のテンポラリテーブルと同じ名前を指定して作成されたものである場合は例外である。`MIXED` ログ形式を使用してそのようなステートメントが複製され、それが行ベースのログにとつてアンセーフな場合、更新がテンポラリテーブルに適用されなかった ([Bug#55478](#))。

[Bug#47899](#)、[Bug#55709](#) も参照。

- **レプリケーション:** スレーブがその `max binlog cache size` の値よりも大きなトランザクションを実行しようとする、クラッシュしていた。これは、`ER_TRANS_CACHE_FULL` エラーが発生した場合、サーバはトランザクション全体ではなく、そのステートメントだけを後退復帰するべきであるという表明が原因だった。ただし、スレーブ SQL スレッドは、エラーのタイプ

- に関係なく、エラーが発生するたびに必ずトランザクション全体を後退復帰していた ([Bug#55375](#))。
- **レプリケーション:** `CHANGE MASTER TO` を使用してリレーログ設定を変更した場合、I/O キャッシュがクリアされなかった。そのため、スレーブが無効データをキャッシュから読み取ろうとして、表明を発行して停止した場合、レプリケーションが失敗する可能性があった ([Bug#55263](#))。
  - **レプリケーション:** 無効なタイプのログイベントを含むバイナリログを読み取ろうとすると、スレーブがクラッシュした ([Bug#38718](#))。
  - **レプリケーション:** `mysql.tables_priv` テーブルを複製しても、`Grantor` カラムが複製されず、スレーブでは空のままだった ([Bug#27606](#))。
  - サーバがトレースファイルのオープンに失敗した場合、`SET GLOBAL debug` によって Solaris がクラッシュする可能性があった ([Bug#57274](#))。
  - `SELECT` ステートメントによって返される行の数が、同じ行を選択することが予想される `CREATE TABLE ... SELECT` によって返される行数と異なる可能性があった ([Bug#56423](#))。
  - ファイル名の大文字と小文字を区別しないファイルシステムで `lower case table names=2` と設定されている場合、テーブル定義キャッシュの不一致によってサーバがクラッシュする可能性があった ([Bug#46941](#))。
  - `GRANT` ステートメントのホスト名の大文字の処理に一貫性がなかった ([Bug#36742](#))。

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。